

8.9%

この数字は何の数字でしょうか？

地域の防災力を高める 自主防災組織

8.9%は本町の自主防災組織の組織率です。

自主防災組織とは、自治公民館などの単位でつくられ、日ごろは防災知識の啓発や防災訓練に取り組み、大地震や洪水などの大規模な災害時には、避難の誘導や負傷者の救出・救護、炊き出しなどを行う組織です。

組織率は、加入している世帯数の割合です。昨年4月時点での自主防災組織の組織率は、全国平均が69.9%、鹿

児島県内の平均が65.4%、本町は平成21年3月末現在で8.9%です。現在、組織づくりを進めている地域もあり、その割合は大きくなる予定ですが、県内で低い状況には変わりありません。

大規模な災害時に、行政や消防、警察といった機関がどこまで迅速な対応ができるか、その活動には限界があります。避難や救助活動が一刻を争うとき、住民同士が連携、協力し合って、地域の被害を

最小限に抑える自主防災組織の活動が求められています。

最近では中国の四川大地震や岩手・宮城内陸地震、岩手北部地震で大きな被害が出ました。本町でも、いつ大地震が発生してもおかしくありません。地震だけでなく、近年は豪雨の回数も増え、水害も同様に懸念されています。

「自分の地域は、自分たちで守る」といった意識をもち、自主防災組織の必要性に関心をもってください。

自主防災組織を立ち上げよう

自主防災組織はどのようにして立ち上げるのか。町では、人と人のつながりがある自治公民館を母体として組織する方法をおすすめしています。